

## 「第3回大阪城東部地区まちづくり検討会」 議事要旨

■ 日時 令和2年3月23日（月） 午前10時から午前11時30分

■ 場所 大阪市役所 P1 会議室

■ 出席者 別添の「出席者一覧」のとおり

### ■ 議事要旨

#### 1. 議題

##### ○西澤委員

- ・ 非常によくまとめていただいた。特にイノベーション・コアは、大学にとって一番重要なポイントになると思う。
- ・ 今まで従来の私どもの主張してきた全体的な考え方が含まれている。
- ・ 従来の単なる機能だけではなく、それを文化・芸術にまで広げられた人材養成という観点からまとめられている。
- ・ スマートシティの推進で、そのベースになるいくつかの機能で、「STAD」なるものを確立し、前向きにやっていきたい。
- ・ この「STAD」という形での、教育あるいは人材養成あるいはクロスオーバーシティとしての文化・芸術・国際交流に向かって推進していきたい。

##### ○荒川学長

- ・ 10ページの「大学が先導役となり展開する機能」のところに「STAD」を入れてもらった。シリコンバレーで始まったイノベーションは、「STEM」すなわち科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics)という自然科学のアルゴリズム主導で起こった。それでは、少し時代にそぐわなくなってきたということで、アートのAが入り「STEAM」へとコンセプトが変わってきた。
- ・ 「STAD」は、それを超える概念として、サイエンスとテクノロジーそれからアートとデザインという組み合わせの融合を図るというコンセプトが次の時代を担うコンセプトになるというもの。
- ・ サイエンスとアートは、それぞれ自然科学と人文科学のいわば夢とロマンの部分がサイエンスとアート。それを実際表現するツールとして、テクノロジーとデザインがある。サイエンスとテクノロジー、それからアートとデザインは一つのセットになっている。
- ・ 2つのセットが融合してまちをつくっていくというコンセプトをアカデミアとして支援し先導していく考え方に立って、まちづくり、ひとづくりを考えるべきと思って提案した。
- ・ ちなみに「STAD」はオランダ語で、まち、要するにタウン、シティの意味なので、この略語がすなわち森之宮のまちづくりにぴったりの言葉になるのではないか。「STAD」を、このまちづくりのコンセプトにしていいただければありがたい。

##### ○西澤委員

- ・ 文科省の人文社会科学特別委員会の中間報告では、人文学、社会科学、自然科学を俯瞰できるような人材養成、あるいは世代間の協働に意識を向けた人材養成が必要と言われている。
- ・ 森之宮キャンパスでは、自然科学、技術の機能、人文社会科学系の競争の場としてのアートとデザ

インの融合が誘発できるというのが趣旨。

- ・ 森之宮が、この領域では例えばデータマネジメントセンターを設立、あるいはスマートユニバーシティあるいは産学連携の共同ラボ、その交流センターあるいはスタートアップ支援といったことから、その人材養成、文化・芸術・国際交流へと展開したい。
- ・ 特に留学生の招致、それから海外研究者の招聘などを積極的に推進して、国際的な交流の場にも持っていきたい。
- ・ 新大学では、情報学研究科を新たに新設し、情報学の専門家を養成する。特に現在考えているのは、他の領域である医学、工学あるいは理学、農学等々の分野と情報学を同時に専門的に育てられる、専門人材育成という大学院コースを今、考慮に入れている。いろいろな発展形が考えられる。

#### ○高橋座長

- ・ 今、うめきた2期では、まちづくりとあわせて、みどりとイノベーションの融合をテーマに、それに関連するスタートアップ企業を呼ぶための、いろいろな仕組みを考えている。
- ・ 2024年度のまちびらきにそういう新しい組織を作るのではなく、今、事業者それから民間企業の方、財界含めて、協議会を立ち上げており、協議会を機構に変えて、少し準備運動をしながら、2024年度のまちびらきを目指す動きをしている。
- ・ 今、説明された「STAD」に向けて、2025年度に向けてではなく、例えば2022年度の開学に向けて、来年度から大学、大阪府、大阪市あるいは経済界、企業等を含めて、ソフト面のところを検討する場でも設けながら、ハード・ソフト両面で進めていけばどうかと感じた。特に資料に記載はないけれど、そういう進め方はいかがなものか。

#### ○西澤委員

- ・ 具体的にどう関係する皆様方とご相談するのがいいのか、まだ見えていなかったもので、ぜひそういった形で場を形成していただけたらありがたい。

#### ○高橋座長

- ・ 事務局で考えて、追記いただきたい。

#### ○辰巳砂学長

- ・ 2022年の時点では、森之宮にはまだ建物が建っていない状況だが、学生を含めて、ここはまちになるということを、ぜひ外から見えるようにしたい。
- ・ そういう意味でこの「STAD」も含めて、ソフト・ハードを含めて、ふさわしいものができるということを前面に出していきたい。高橋副市長から提案されたように、ソフト面は、すぐにスタートしていくべきと思う。

#### ○橋爪委員

- ・ 全体的に、この形で進めていただければと思う。
- ・ 特にエリアマネジメントが重要だが段階的なエリマネというのはなかなかないので、今回、新しい試みができるだろうと思う。
- ・ 12ページのゾーニングのところ、OBP、京橋方面との連携で、緑の矢印が大阪城公園の方向にはあるが、北の方向には伸びていないので、何か、OBP、京橋方面と連携について記載していただけないか。

- ・ 11 ページの大阪城公園の緑や水辺空間と一体的なデザイン性の重視について、この1期、1.5期の当該地の真西に大阪城天守閣がありまして、この広場のデザインとか、1期、2期の設計にあたっては、大阪城公園全体の眺望及び大阪城天守閣への眺望を、ぜひ意識していただきたい。
- ・ デッキが南に走る場合にはその軸線からちょっと逸れるが、視覚的な眺望を真西に向けているので、天守閣の展望台から真東にこのエリアが見え、逆にこのエリアから真西に天守閣の後ろに夕陽が落ちるといふ非常に象徴的な景観面の軸線がある。特にそれを特記してもらいたい。
- ・ 拡張検討ゾーン等で、将来、建物のようなものが建ってくると思う。手前に建物が全然関係なく建てられると、せっかくの駅から素晴らしい天守閣が見える風景の軸線が消えてしまうので、考えておいてもらいたい。
- ・ 現在、私は都市景観委員会の委員長でもあり、ぜひ大阪城天守閣の見え方は大事。大学にとっても海外から研究者が来られた時に、天守閣がドンと見えている軸線を意識してデザイン上の配慮は非常に大事と思う。
- ・ 資料の加筆要望ではないが、全体として物語性を今後きっちり考えていくべき。現況から未来を語っているが、森之宮には歴史があり、大阪にとって重要な地名。二つの意味合いがある。
- ・ 一つは、ここは上古から森があった。聖徳太子の時代に新羅に出した使者が持ち帰った「カササギ」という鳥に由来する鵲森宮（かささぎもりのみや）という神社が、中央区側の駅のすぐ西側にある。
- ・ 森之宮というのは本当に歴史のある地名で、東成区のエリアも含めておそらく森が広がっていたのであろうと思う。そういう大阪における緑地というか、イメージ、歴史がこのエリア一帯にはある。
- ・ もう一つは、国際交流、大陸との交流が、大阪において森之宮でも始まった場所だということが森之宮の地名の中には託されていると思う。そういうことを、先々地域を語る時には、遡って考えて、ストーリー性を持つことも重要。
- ・ 近代においては、ここは城東練兵場となり、日本で初めてヨーロッパのイタリアから直行の飛行機がこの地に降り立ち、あと大阪から逆にヨーロッパ訪問飛行機が飛び立っていったという、日欧友好の航空に関する歴史で非常に重要な場所でもある。
- ・ この環境という面と国際交流という面において、この場所は様々な歴史があるので、資産としてここは重要だと思う。単に現況から未来というだけではなく、上古からの歴史がここにあるということも意識しながら、今後、エリアマネジメント等々に生かしていただきたい。

#### ○嘉名委員

- ・ よくまとめていただいている。
- ・ この大阪城東部地区のまちづくりを、どう位置付けるかをしっかり考えていく必要があると改めて感じた。
- ・ 工場等制限法により、大阪は都心に大学を作れなくて、大阪市大は大阪市域の端っこの杉本町でずっとやってきた。その後、工場等制限法が廃止され、ようやく都心に本格的なキャンパスを作れるようになった。
- ・ 大阪市立大学は、關一 元市長が大阪市立大学のコンセプトを「都市は大学とともに、大学は都市とともに」と言っていて、大学が都市に貢献できるようにということを考えていた。非常に感慨深いまちづくりが進むと思っている。
- ・ これから、大学がもっと地域のまちづくり、あるいは大阪の活性化に貢献できるような、本当に新しいタイプのまちづくりがしっかりできればいいと思う。

- ・ 公共的には、今準工の用途を土地利用転換していく必要性、意義をしっかりと市民の皆さんに広く理解していただく必要がある。
- ・ 民間事業所の立場としても、地域価値の向上や、将来的に有効活用していくという必要性を、理解してもらうこともあると思う。そういう意味では、このまちづくりがどう役に立つのか、あるいは事業者側にとって、それが地域価値の向上とか事業性があるのかが非常に重要と思う。しっかり考えていく必要がある。
- ・ 大学ができるとやっぱりまちが変わる。周辺に学生が住むと、昔だったら雀荘ができたり、少し定食屋さんが出来たりとか、まちの中から形が変わっていく。周辺のまちがどんなふうに変わっていくかということもシナリオとしてこれから考えていく必要がある。
- ・ 柏の葉のアーバンデザインセンターでは、まちづくりの初動期に何を行ったのかというと、最初はセグウェイや、無人のバスの移動などのフィールドとしてよく使っていたと聞いた。
- ・ 基盤は整備されているが、人があまりいないので、社会実験をするのに非常に都合が良い。人がいないので、こんな面白い実験を行っているなど、メディアに話題性を提供することが実はまちづくりに非常に有効で、最初は社会実験フィールドとして活用されるといいのではないかというアイデアをもらった。
- ・ そういう意味で、そういうアイデアを今回盛り込まれているので、どんどん開学前から準備をして、大阪市と共同で進めていくことが重要。
- ・ うめきた、柏の葉、OBPとも違う新しいまちづくりモデルを作る必要がある。1期、1.5期、2期、3期と、数十年に亘ってまちが育っていくような新しいタイプのまちづくりに我々は取り込まないといけないが、それをどういうふうに進めていくかという答えはないと思う。
- ・ 例えば隣のOBPでは、まちびらきして30年以上経っていて、いろいろな先行事例や知見を持っている。周辺や全国の参考事例を勉強しながら、新しいまちづくりモデルを作っていくのが良いと思う。
- ・ エリアマネジメント組織については、初動期では、多分森之宮版のアーバンデザインセンターのようなものを立ち上げながら、それを推進力にして、まちづくりのデザインをしていくことになると思う。
- ・ 16ページの「周辺地域を含めた全体のエリア像」については関係者がいる話なので、今回は盛り込めないと思うが、次の段階では全体のデザイン像みたいなものが必要。
- ・ すでに都市再生緊急整備地域は、天満橋、OBP、京橋が入っているが、大阪城PMOも含めて、全体のまちづくりの将来像で、どこまで詰められるかはある。一つは、フットパスとかペDESTリアン、歩行者空間を含めた交通ネットワークを、お互い繋がった方がいいとか、一定機能連携みたいなことを図った方が良いという話はできると思う。
- ・ 特に森之宮周辺は最初大学だけが孤立してしまうので、そういう全体像を作り、全体像としてすごく魅力のある場所だという打ち出しが非常に重要。

#### ○事務局（山田部長）

- ・ 都市再生緊急整備地域の指定に向けては、国と協議中。大阪城公園を中心に天満橋、大阪ビジネスパーク、京橋が緊急整備地域に指定されており、この拡充という形で大阪城東部地区を盛り込むよう、国と協議しているところ。
- ・ 対象として約50ヘクタール。今回の基盤整備の考え方や土地利用の方向性を基に、国と協議しており、整いしだい申し出が出来るよう準備をしている。

## ○岡井委員

- 全体の方向性については、これが実現すれば良い地区になると期待している。
- 大学が立地するとその地区は大きく変化する。例として、立命館大学の琵琶湖草津キャンパスは何もないところに大学ができ、それから大きくまちが発展した。大学が周囲に及ぼす影響が非常に大きいと実感している。
- その上で、森之宮の地区でどういったことが重要かと考えたとき、やはりうめきたなどの地区と比べ、少しポテンシャルが弱いと感じている。
- 8ページのスマートエイジングシティを全面的に押し出すなど、利便性が多少悪くても、例えば、この地区に企業が立地することで、企業イメージが良くなるとか、この地区で開業することで良い影響があるとか、この地区で何かをやりたいと思わせることが重要。
- 健康とか環境がキーワードになると思う。その上でその健康に関して、URの住宅団地や、病院、何よりも大学があるので、高齢者が今後増えていく中で、終の住み家となるような住宅を考えてみるのもよい。URは既に高齢者の見守りシステムを、ITを使っていろいろな住宅団地で行っておられるので、もう少しそれをうまく使えば、例えば、入院しなくても朝起きて体温を測れば病院にデータが行くとか、訪問医療や訪問介護とかをうまく多用しながらやることで、ここに来れば老人ホームに行かなくても、森之宮に住めば、そのまま安心して最期まで住めるという安心感を持った住宅を供給できることも一つかと思う。
- 環境の資源という意味では、全面的に環境に配慮した地区を徹底して作ることも一つかと思う。
- 千葉の船橋市で野村不動産がやっている「ふなばし森のシティ」は、かなり環境に配慮しており、フランス政府から環境地区としての認証を得ている。こういう環境に配慮した開発地区を目指していくということを目的にしてもいい。
- やはりその地区全体をコントロールしていくことが必要で、エリアマネジメントが非常に重要。
- この地区は、いろいろな手法を使って容積率をアップしていく整備手法をとると思うので、そのときに公共貢献として、敷地単位ではなく、地区全体的な観点からの公共貢献を提案してもらい、それに対して各敷地に容積を割り振るという形で、地区としてマネジメントを行っていくことが求められると思う。

## ○下條委員

- 国際的には「STEM」に「A」を加えて「STEAM」だが、「STAD」はさらにデザインを打ち出したという、非常にいいコンセプトだと思う。まさに、まちづくりと絡めてこれを進めていただきたい。
- 11ページの「モビリティ」、「ヘルスケア」は、いわゆるサービスを受ける人たちの受容性や、「ELSI」、いわゆる世界のリーガルソーシャルイシュー（法的・社会的問題）ということを考えなければいけない。
- そういう意味で、総合大学としての公立大学には非常に期待している。必ずしも情報だけではなく、都市計画やいろいろなものが絡んでくる可能性があるので、この辺をぜひ一緒に進めていただければ。
- うめきた1期は、ある意味では「STEAM」あるいは「STAD」を目指して、いろいろなコンセプトの企業と作っている。そしてそれを2期に、さらにはまちに発展させようということが出来上がっている。しかし、市大は駅前第2ビルにあるので、うめきたには出てきていない印象があ

る。今からでも、今度2期の暫定利用のところで、更地を使っていろいろな実証実験や、このコンセプトの練習問題を解くということはいろいろできるだろう。

- ・ 先週、大阪市のスマートシティ戦略局がコロナサイトをあげた。東京都でコロナサイトを作って公開したら、それを大阪府市がうまく取り込んで、そのまま公開された。あれはすごい画期的なことで、なかなか大変だったと思う。ああいうのが学生ならもっとすぐできて、それにさらに教育にも効果があるので、ぜひそういうところに絡んでいただきたい。
- ・ 最後のページで、次年度以降の取組みのエリアマネジメントの中に、ぜひスマートシティを入れていただきたい。
- ・ すでに市大の阿多先生が、大阪府市のスマートシティの動きに関わっているのだから、そのことも入れて、これからまちづくりを考えていくと、実証実験も含めて、いろいろと進むと思う。

#### ○杉岡委員（JR西日本）

- ・ 東西動線の整備については一緒に協力して検討を進めていきたい。東西動線の整備が完成するまでは、森ノ宮方面からのアクセスをどうするかについて考えていかなければいけない。
- ・ また橋爪委員がおっしゃったように、京橋方面との連携が重要である。京橋駅は、大阪、難波、天王寺に続く規模の大規模ターミナル駅であり、京橋方面からの人の動きについても考えていく必要がある。駅からのまちづくりの観点で、今後、協力して進めてまいりたい。

#### ○土肥委員（大阪メトロ）

- ・ 本日もお話いただいた内容で進めていただきたい。
- ・ 53ヘクタールのまちづくりは、長期にわたる時間軸を踏まえ段階的に開発される。これを踏まえた上で、まず、トリガーとなるイノベーション・コアゾーンの開発について、協力していきたい。
- ・ 次年度以降の取組みのところの、2025年度以降の1.5期について、府市をはじめ本件関係者の方々と具体的に協議を進めながら、検討していきたい。
- ・ スマートモビリティについて、これもまちづくりに合わせて段階的になると思う。その中で実証実験などいろいろ行っているのだから、採算性は一定必要であるが、導入に向けて地域交通の担い手として検討させていただき、協力していきたい。

#### ○新居田委員（UR都市機構）

- ・ 16ページの次年度以降の取組で、多世代居住複合ゾーンの連鎖型都市再生の検討の中にUR団地の団地再生とある。団地再生には大規模改修があれば建て替えもあり、その手法については居住者と丁寧に意見交換をしながら決めていくので、こういう表現をしている。連鎖型の都市再生という形で、引き続き検討していきたい。
- ・ 連鎖型で事業をしていくと最後に新しい土地が出てくる。今回、多世代居住複合ゾーンの中で、その新しく生まれた土地をどういうふうにするかは、今の時点では決めていない。
- ・ UR団地の建替えだけでは子育て層は来ないので、そこを民間住宅も含めたという形で使うのか、医療とか健康の用地として使うのか、それとも森之宮第2団地の傍では大学の拡張用地という選択もある。これは今決めずに、10年、15年、時間がかかるので、その中で決めればよいと思う。
- ・ 事業スキームについては、一つの事業手法として住宅局の住宅市街地総合整備事業により住宅の再生をすればよいと思う。

- ・ 東側の密集市街地の避難路整備の関連づけとか、そこまで範囲を広げるかどうかは別にして、うまく使えると思う。
- ・ 東西動線について事業手法や負担についてはこれから議論していく必要がある。資料の中では◎で来年度以降ということになっている。やり方として、地権者としては、公共で全部行ってもらえれば一番良いけれど、そうはいかないでしょうから。地権者として、いろいろ容積とかと関連して考えていく必要がある。
- ・ 1期、1.5期それ以降ということで時間がかかるので、どういう手法が良いのかはこれから検討していく必要がある。手法としては、大きく区画整理の網を掛けて、減歩や負担金等で、そういったものを整備していくやり方。うめきたや東京の品川、渋谷では、区画整理事業を使いながらそういうことを行っている。
- ・ 東京の銀座線の虎ノ門から日比谷線の虎ノ門新駅にかけて、歩行者動線として地下道やデッキを、まちづくりガイドラインに沿って、各街区の再開発事業においてルールを決めて、順次負担して作っていった例もある。それらを参考にしながら、どういった事業で誰が負担するのが良いか、これから考えればいい。
- ・ 15ページで1期と1.5期の開発展開イメージの中で、団地を活用するというのがある。暫定利用として団地前広場の活用が書かれている。居住者と話をしなければいけないが、団地の中にも広場があるのでいろいろイベント等に活用してもらえればよい。

#### ○松本委員（城東区長）

- ・ 本日はまちづくりの方向性について一定整理をされたものと考えている。
- ・ やはり地域としては、今日は示されていないが、2期3期のスケジュール感や、全体的な開発のイメージなどが、非常に関心事になっている。そういったことも含めて、地域住民に対する説明や対話など、当然区も一緒にさせていただきたい。
- ・ できるだけ早い時期に、まとめていただくことを要望させていただきたい。

#### ○麻野区長（東成区長）

- ・ 東成区は、このエリアの南側、成人病センター跡地の部分にあたる。当区は大阪市の中でも少し外れの方にあるが、この大阪城東部地区エリアが、まさに京橋、OBPそれからキタといった、大阪の発展の一番コアになる部分と繋がるゲートウェイとなると思っており期待している。
- ・ その意味で、13ページについて人の動線が書かれているが、その府立成人病センター跡地の部分に関して、中央大通りから当区の方に抜けていく道路について、何も入っていないので、ぜひその動線整備も考えていただきたい。
- ・ 成人病センター跡地を含む当区のエリアは中央大通り、阪神高速が通っており、若干物理的に離れたイメージがあるので、ぜひとも一体性を持って考えていただきたい。
- ・ イノベーション・コアというコンセプトもあり、産学官民連携のまちづくりは、非常に期待。
- ・ 東成区そして生野区、東大阪市の辺りは、中小企業の製造業の集積地なので、その活力をぜひ生かして、イノベーションをやっていただきたい。
- ・ 10ページのイノベーション・コアの中に、企業、ものづくり産業等との共同研究やマッチングについての記載があり、8ページの一番上のコンセプトにはイノベーションという言葉が記載されているが、下の戦略・シナリオ等のところに表現がされていない。キーワードとして産学官民連携やナ

レッジキャピタルが出てくるが、イノベーションをここから起こして行くというようなところが、具体的に書かれていないので、考慮いただけたら良いと思う。

#### ○荒川学長

- ・ 10 ページの「STAD」の説明について、「アート・デザインの融合」とあるが、「まちづくり、ひとづくり」のコンセプトと考えている。「科学・技術とアート・デザインの融合によるまちづくりひとづくり」というコンセプトにしていきたい。
- ・ この森之宮をこれから企業にどう興味を持ってもらうか、あるいは学生、市民、教育者とか研究者に、どう興味を持ってもらうかという、見せ方の問題がこれから非常に大事になる。
- ・ そういった意味で、ぜひAとD、アートとデザインを担う若手クリエイターなど、そういった人を含めて具体的な勉強会を、企業も含めて開いていただければ、ありがたい。
- ・ あくまでもヒューマニズムを基盤においたまちづくりが必要ではないかと思うので、「STAD」を軸にそういう人材を作っていく、あるいはものを作っていくという、まちに育てていくような形となるよう、アカデミアとしても最大限の努力を払っていきたい。

#### ○辰巳砂学長

- ・ 今回、東西の動線について、かなり重視されたのが非常に嬉しい。
- ・ ハドソンヤードとまで高層でなくても、あそこに、まちができるというイメージで、できるだけ皆さんに周知できるような方向で、繰り返しになるが、新しい大学にやって来る新学生が非常に期待を持てるような、お膳立てが、ぜひできれば良い。

#### ○事務局（下村理事）

- ・ 水辺空間の整備については、河川管理者と地元市が協力して、河川空間とまちづくりが一体となって整備する国の「かわまちづくり支援制度」がある。
- ・ この制度を活用して、特に河川の国の交付金を基盤整備に入れることができる。第2寝屋川なので、府河川室に、本制度を活用した整備を検討するように協議をしている。
- ・ ただ、基盤整備に対して河川管理者の費用負担が可能であるが、表面の整備については大阪市側でも検討してもらうよう、今後事務局として協議を進めていく。
- ・ 「かわまちづくり計画」は市が作成することになっている。とんぼりウォークや船着き場など、その位置づけをして整備したもの。今後、その議論をし、かわまちづくり計画を作った上で、どういふ資金を投入するか、関係者で協議をしていく。また嘉名先生や橋爪先生にもいろいろアドバイスをいただきたい。

#### ○高橋座長

- ・ 淀屋橋のラブ・セントラルについては、護岸を作って親水空間を作られた。府の事業として整備されたと思うが、森之宮でも同様の事業ができないか。

#### ○事務局（下村理事）

- ・ ラブ・セントラルや、木津川の遊歩道空間整備は、府の方で予算を取ってやったケース。
- ・ 今後の事業手法の一つとして可能。ただし、大阪府の府民文化部や、財政局と協議が必要とな

る。

○高橋座長

- ・ 活発なご議論、誠に感謝する。
- ・ 大学法人からも、科学・技術とアート・デザインの融合によるまちづくり、ひとづくりという形で提案があったが、今後、まちづくりのテーマを考えていきたいと思うので、よろしくお願いします。
- ・ 事務局の方から今後の流れについて、説明をお願いします。

○事務局（山田部長）

- ・ 「大阪東部地区まちづくりの方向性（案）」については、本日のご意見を踏まえ、修正した上で、事務局である大阪府、大阪市でとりまとめ、5月ぐらいに、行政の案としてパブリックコメントを行う予定。
- ・ パブリックコメントでいただいた府民、市民からのご意見をふまえて、最終的に「大阪東部地区のまちづくりの方向性」としてとりまとめていく。
- ・ このプロセスの中で、生じた修正については、事務局が会長や座長と相談の上、判断をしていきたいと思っているのでご了承いただきたい。
- ・ また次年度以降の取組みについては、項目ごとに必要に応じて検討体制を組みながら進めていきたい。

○事務局（角田局長）

- ・ お願いという形となるが、検討体制については、項目が多いので、今日ご参加の皆様、特に地権者の方々や大学の皆様方に、ご協力いただき適切な役割分担しながら、進めていきたい。
- ・ 資料の中で◎を打っている部分、本日、活発なご議論の対象になった部分、エリマネなどもあるので、できるだけ関係者が集まった体制を構築していきたい。その他の○については、個別にご協議するものも出てくると思うので、よろしくお願いいたします。

○高橋座長

- ・ 次年度以降取り組みの◎については、これは2020年度特に頑張るところなので、委員の皆様方の協力をいただきながら進めていきたい。
- ・ 今年度は、これで一旦まとめさせていただき、来年度は、この◎について皆様のお力を借りながらしっかり検討していきたいので、よろしくお願いいたします。

○田中会長

- ・ この検討会、昨年12月にスタートしまして、約3ヶ月で方向性案をまとめてきました。委員の皆様方に感謝。
- ・ 今後、この方向性案を踏まえ、大学のあるまちとして、非常に特色あるまちづくりを進めていきたい。まずは1期、1.5期。このキャンパスの整備にあわせて、この東西動線、あるいはそのエリマネについて、至急、計画精度を上げるスキームを掘り下げる必要がある。
- ・ 50haの中にいろんな地権者がおられ、また段階的に整備していくということから、全体をコント

ロールするなどの見渡したデザインをしっかりと構築していく必要がある。同時に、それをずっと継続、持続していく仕掛けも必要。

- ・ こういう大きなまちで進めていく上では、将来にわたって、何十年にわたって不変のものとして、皆が共有するコンセプト、テーマが一方で大事。他方では、この成長する、時代の変化に合わせて、柔軟に変えていく部分も一方で必要。その両者が果たしてどういうものかについては、早くから議論してある程度整理する方がよい。いろいろな事態が発生したときに、調整的に物事に取り組んでいくための準備にもなる。
- ・ これまではまちがどうあるべきか、どうありたいかという議論が中心だったが、これからは、それをどう実現していくかというところに軸足が移った。引き続き、皆様のご協力、ご助言をよろしく願います。

#### ○高橋座長

- ・ 事務局から説明があったように、大阪府市において「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」をとりまとめ、パブリックコメントを行ったうえで公表し、このエリアの魅力を互いに発信して、民間活力の導入に向けた具体化を図っていききたい。来年度も引き続き、よろしく願いたい。

## 2. 閉会

#### ○事務局

- ・ それではこれもちまして本日の議事を終了させていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

以上